

# 会 議 録

1 会議名	第5期 第2回南砺市協働のまちづくり推進会議
2 議題	(1)講演 講師 長澤 孝司 氏 演題 南砺市まちづくり基本条例策定のきっかけ (2)ワークショップ(グループディスカッション)
3 開催日時	令和4年8月2日(火) 開会時間:午後7時/閉会時間:午後9時
4 開催場所	南砺市役所 別館3階 大ホール
5 会議出席者	[委員:全20名] ※50音順、敬称略 出席:荒木 信人、上坂 紀子、江田 攻、長田 正勝、齊藤 優華、 佐竹 弘昭、嶋田 早苗、竹部 俊恵、俵 圭子、 中山 明美、能登 貴史、長谷川 邦子、林 則雄、 南 眞司、藪 英雄、渡辺 洋子 欠席:磯辺 文雄、塚八 栄治、坂本 博昭、松本 久介  [市:出席3名] 事務局 市民協働部長 市川 孝弘 南砺で暮らしません課長 船藤 統嗣 " " 主事 得能 基史
6 傍聴者	1名
7 主な会議録	林委員長より開会あいさつ 本日はお集まりいただきありがとうございます。講師にお招きさせていただいた長澤さんは、南砺市まちづくり基本条例の第一歩を踏み出した方なので、当時の思いや、現在の南砺市協働のまちづくり推進会議に期待すること、まちづくりに対する思いについてお聞きし、今後も我々の活動に活かしていければと思う。  (1)講演 講師 長澤 孝司 氏 演題 南砺市まちづくり基本条例策定のきっかけ  (2)ワークショップ(グループディスカッション)  事務局より説明 ・話題提供 「これまでの提言と市の対応について」

#### グループディスカッション

- ・講演に関する感想を4つのグループにて話し合い、発表

#### Aグループ

- ・人が減る中でどうやって地域を維持するのか考えるきっかけとなった。
- ・地域に若い人が少ない。
- ・地域外との関わりが少ない。
- ・婦人会がなくなり、役員のなり手が少ない。
- ・高校生と地域に関わる機会が少ない。

#### 長澤さんのコメント

これから人が増えることはないという前提で、どうやってみんな楽しく心豊かに暮らせるかという視点で考えなければならない。これからは役職に関わらず、できる人ができることをできる分だけやっていくということが大切である。

婦人会がなくなっても地域の半分以上は女性である。山田地域づくり協議会では、3人以上のグループを作って何か行うことをサポートするという試みを行っている。地域づくりは急にはできないが、いろんな種を植えてみる大切である。枯れるものもあるが、育つものもあり、そのようなことを続けていく気持ちが大切だと思う。

#### Bグループ

- ・南砺市協働のまちづくり推進会議の3つの役割のうち、推進に力を入れてほしいということをお願いいただき、道が開けた気持ちになった。
- ・それぞれ活動されている団体と、地域づくり協議会がしっかりと連携することが大切だと感じた。
- ・もともと地域に住んでいる人だけでなく、外から来た人を巻き込んでいく仕組みも必要だと感じた。
- ・これからは、少ない人で行うまちづくりが当たり前で、今あるものをなくしていくことも大切なのではないかと感じた。

#### 長澤さんのコメント

なくすことができるものはなくしていくことが大切だと思う。新しいことを始める時にも、なくせるものをなくすという視点が大切であると思う。

山田地域づくり協議会でも、組織のあり方や部会の人選なども見直しているところである。

#### Cグループ (委員欠席によりCグループとDグループが統合)

- ・協働という思いを形にするためにどうするか、ということ問われている時期だと感じた。
- ・市では人づくりを進めてきた。それも大切だが、事業開発をすることが大切であると感じた。
- ・個人や集落やまちづくり団体はそれぞれができることをやり、地域づくり協議会はそれらの支援や協議会でしかできないことをやるなど、それぞれができることを推進することが大切である。

#### 長澤さんのコメント

小規模多機能自治という考え方が基になり、地域づくり協議会が立ち上がったと理解している。小規模とは顔の見える範囲であり、人口が多すぎると地域づくりについて他人事になってしまう住民が増えてしまうと懸念される。小規模多機能自治の適切な人口規模について、考え直す時期なのかもしれない。これからは、過去に決めた範囲にとらわれていると立ち行かなくなる時代になると思う。

#### Eグループ

- ・ワークショップは何のためにするのか、推進と言われても何を推進すればいいのかかわからない、ゴールが見えないというところから話から始まった。

- ・昨年推進会議が提言した持続可能な地域づくりのため、地域づくり協議会の代表の決め方について至らないところがあるのではないかと感じた。
- ・地域づくり協議会と議会との対応についてお聞きしたい。
- ・私たちが考えるまちづくりの範囲について、地域づくり協議会は昭和の合併時の区域が選定されているが、今の私たちに適した範囲に考え直す必要があるのではないかと感じた。
- ・制度的なものを作ることも大切だが、昔からあった結や講のような、いわゆるボランティア精神のようなものと対比させることで人づくりや人材育成のヒントがあるのではないか。
- ・我々の世代では旧町村の感覚で考えてしまうので、今日のワークショップでは、おかしいと感じることについて意見を出していた。唯一の救いは今の子どもは南砺市生まれということである。

#### 長澤さんのコメント

地域づくり協議会の体制づくりについて見直すことは非常に大切だと考えている。山田地域づくり協議会でも、代表の決め方を見直したところである。

ゴールを決めるということも、推進会議を進めるために大切なことである。目標を定めると舵取りもしやすくなると思うので、共通のテーマやゴールを設定されることが大切だと思う。

#### 齊藤副委員長より閉会あいさつ

長澤さん、ありがとうございました。南砺市協働のまちづくり推進会議にとって大切なことは「推進」であるという共通理解ができ、ワークショップも経て、これからみんな協働することが見えてきた気がした。

長澤さんの講演を受けて、自分ごととして、明日子どもたちにごみを拾うことについて話すことから始めたいと思う。講演の中でもあったように、ごみを拾ったことがある子どもは、道にごみを捨てる大人にはならないと思う。これからも、自分にできることから始めていきたいと思う。今日はありがとうございました。